各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

麦類赤かび病の発生状況(技術情報第2号)について(送付)

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、参考資料としてご活用下さい。

記

1.麦類赤かび病の発生状況の概要(別紙1)

小麦では、平均発病穂率1.5%(平年5.5%)、発病度0.3(平年1.0)と平年よりやや少ない発生であり、軽い病徴のものがほとんどである。発生圃場率は68.0%(平年58.8%)と平年並である。

大麦では発生圃場率36.4%(平年26.7%)、平均発病穂率0.6%(平年0.6%)、発病度 0.1(平年0.1)と平年並の発生である。

2. 赤かび病被害粒の取り扱いについて

収穫においては、赤かび病被害を受けた麦と健全な麦との仕分けを行い、被害粒の混入を防止する。また、共同乾燥施設では、被害粒の混入を防止するため荷受時にチェックし、健全粒と被害粒を別に乾燥する等の仕分けの徹底を行う。

3.今後の留意点

現在、赤かび病は平年よりやや少ない発生であるが、今後の気象により発生が増加することも考えられ、出荷する際は赤かび病被害粒に十分留意する。

(参考)

- 1)麦類の病気の一種である赤かび病は、フザリウムというかびが原因であり、かび毒であるデオキシニバレノール(Deoxynivalenol: DON)を作る。
- 2) 平成15年産麦(大麦を含む)からは、農産物検査規格のうち食用麦の赤かび病被害粒の混入率が、これまでの1.0%から0.0%(1万粒のうち4粒まで)に引き下げられた。また、小麦において一層の安全性を確保するために、DONの暫定的な基準値が1.1ppmと設定された。

別紙1

平成17年度 麦類赤かび病の調査結果

調査日 平成17年5月10~11日

コムギ

	- 地点名	発病穂率					
	地流石	光/内心华	0				発病度
1	玉名市北牟田 1	1	99	1	0	0	0.2
2	" 北牟田 2	0	100	0	0	0	0.0
3	" 北牟田 3	0	100	0	0	0	0.0
4	菊池市赤星 1	2	98	2	0	0	0.3
5	" 赤星 2	2	98	2	0	0	0.3
6	〃 七城町砂田 1	0	100	0	0	0	0.0
7	" 七城町砂田 2	1	99	1	0	0	0.2
8	大津町新 1	0	100	0	0	0	0.0
9	" 新 2	2	98	2	0	0	0.3
10	御船町小坂 1	1	99	1	0	0	0.2
11	〃 小坂 2	2	98	2	0	0	0.3
12	" 小坂 3	3	97	3	0	0	0.5
13	甲佐町糸田 1	2	98	2	0	0	0.3
14	" 糸田 2	4	96	4	0	0	0.7
15	" 糸田 3	3	97	3	0	0	0.5
16	嘉島町上六嘉 1	2	98	2	0	0	0.3
17	" 上六嘉 2	2	98	2	0	0	0.3
18	" 上仲間 1	0	100	0	0	0	0.0
19	" 上仲間 2	2	98	2	0	0	0.3
20	城南町今吉野 1	0	100	0	0	0	0.0
21	" 今吉野 2	2	98	2	0	0	0.3
22	" 今吉野 3	0	100	0	0	0	0.0
23	富合町新 1	0	100	0	0	0	0.0
24	# 新 2	4	96	4	0	0	0.7
25	# 新 3	3	97	3	0	0	0.5
	平均值	1.5	発生圃場率	68.0 %			0.3
	昨年値	2.2	"	74.1 %			0.4
	平年値(5年間)	5.5	//	58.8 %			1.0

オオムギ

	地点名	発病穂率	発病程度				発病度
	地黑石		0				光/内反
1	菊池市赤星 1	0	100	0	0	0	0.0
2	" 赤星 2	1	99	1	0	0	0.2
3	〃 七城町砂田 1	0	100	0	0	0	0.0
4	" 七城町砂田 2	1	99	1	0	0	0.2
5	大津町新 1	0	100	0	0	0	0.0
6	" 新 2	0	100	0	0	0	0.0
7	" 新 3	0	100	0	0	0	0.0
8	〃 新 4	0	100	0	0	0	0.0
9	御船町小坂 1	0	100	0	0	0	0.0
10	〃 小坂 2	4	96	4	0	0	0.7
11	" 小坂 3	1	99	1	0	0	0.2
	平均値	0.6	発生圃場率	36.4 %			0.1
	昨年值	1.1	"	28.6 %			0.2
	平年値(5年間)	0.6	"	26.7 %			0.1

1圃場において100穂調査

発病程度 0:発病無し :穂の1/3以下が発病:穂の1/3~2/3が発病 :穂の2/3以上が発病発病度 ={6 +3 + /(6×調査茎数)}×100 2

3